

宇都宮市立富士見小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の肯定的回答は81.0%で、県の平均を14.2ポイント上回った。昨年度から、国語の時間に、意味調べなどで辞書を使う機会を多く取り入れた成果と思われる。4年生になった現在も、辞書を活用する学習に意欲的である。今後も継続使用させて、さらに自主的に調べ、学習していく姿勢を身に付けさせたい。

○学びに向かう力については、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答は76.7%で、県の平均を12.3ポイント上回った。本校が力を入れている「ほめて伸ばす」指導の効果の表れと考えられる。今後も、学級の中で互いに認め合う雰囲気大切に、自分の良さに気付かせ、さらに自信をつけさせていきたい。

○「自分はクラスの役に立っていると思う」の肯定的回答は70.1%で、県の平均を12.3ポイント上回った。係活動など、クラスの役に立つ仕事に真面目に取り組む、責任を果たそうと努力をしている児童が多い。また、日頃からまごころカードなどを活用し、友達に感謝の気持ちを伝え合う場面を多く取り入れている。そのため、自己有能感が高まっていると思われる。人の役に立つ喜びを味わう活動をこれからも増やしていきたい。

○家庭学習力については、「家で、学校や塾のきめられた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は73.5%で、県の平均を11.3ポイント上回った。入学時から「家庭学習のすすめ」などの家庭学習の手引きを配付し、学習のめやすを示してきた。学年に応じた家庭学習を、保護者の方が進めてくださり、積み重ねてきた結果の表れだと思われる。今後も家庭学習が定着するよう家庭と連携し、意欲付けを図っていきたい。

○上記の項目以外でも、県の平均を5ポイント以上、上回った良好な結果が多く見られた。

●自ら学ぶ力については、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答は37.6%で、県の平均を3.3ポイント下回った。調べ学習を進めていく中で、本やインターネットの活用を継続して行い、課題解決の手段の一つとしてより一層利用を促したい。また、児童の発達段階に応じた情報教育を丁寧に進めていながら、本やインターネットを活用させていきたい。

●問題解決力については、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答は55.6%で、県の平均を3.1ポイント下回った。本学年の児童は、自分の意見を発言することには肯定的な回答をしている。しかし、自分の考えをまとめ文章で表現することに抵抗感や苦手意識を持つ傾向にあると考えられる。また、個人差が非常に大きい項目でもあった。苦手意識がある児童への個別指導を取り入れ、文章でのまとめ方の練習を繰り返し指導していきたい。